



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

# THE Y'S MEN'S CLUB OF KOBÉ

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

CHARTERED FEBRUARY 17 · 1930



- ブラザークラブ：高雄（台湾） チェンマイ（タイ） 米子（西日本区）
- 国際会長主題：世を照らす光となろうー恵みを愛もて分かち合おう
- アジア会長主題：歳月はY'sをワイズ（賢者）にするー行動が活力を呼び覚ます
- 西日本区理事主題：先頭に立ってワイズの光を輝かそう、クラブで、地域で、国際社会で
- 六甲部部長主題：柔軟な創造で愚直に積極的なワイズライフを楽しもう
- クラブ会長主題：クラブの伝統を踏まえ、クラブの新しい「顔」を作るべく、それぞれの役割を楽しもう

## 2013年4月

## YMCAサービス・ASF強調月間

### 今月の聖句

「兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら地の尊い実りを待っています。あなたがたも忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。」

ヤコブの手紙7節～8節

### 4月9日第1例会

開会点鐘 18時30分 進藤啓介会長  
 ドライバー 鶴丹谷剛 兄  
 ワイズソング  
 聖句朗読・開会祈祷  
 [プログラム]  
 クラブ討議  
 「クラブ紹介リーフレット制作に向けて」  
 担当 広報委員

報告および事務連絡など  
 ハッピーバースディ

閉会点鐘 20時30分 進藤啓介会長

### 4月誕生日おめでとう

5日 大塚 敏子  
 16日 進藤 啓介  
 28日 美崎 千晶

3月在籍者	3月出席者	3月出席率
19名	メン 14名 メネット 9名	74%
広義会員 0名	コメット 0名	(含メイキャップ°)
合計 19名	ゲスト 2名 合計 25名	前月出席率 68%

### 3月分B Fポイント

切手 0円	現金 14850円
本年度累計	
切手 0円	現金 14850円

### 4月23日(火)第2例会 19:00～

- ◎ 4, 5, 6月例会プログラム確認
  - ◎ 次年度に向けて
  - ◎ その他事務連絡
- 第2例会においても、重要な議題を協議し決めてゆきます。都合をつけて出席をお願いします。

会長 進藤啓介 副会長 尾上尚司 会計 森 章一  
 書記 山本亮司 連絡主事 山本亮司

口座番号 三井住友銀行三宮支店 普通預金No. 1494643 名義人 神戸ワイズメンズクラブ 会計 橋本正晴

例会：第1例会 毎月第2火曜日 18:30 第2例会 毎月第4火曜日 19:00

## 会長メッセージ

# 巨大絵画「雪に包まれる被災地」が繋ぐ

進藤啓介

先日テレビを見ていると、宮城県出身の画家、加川広重さんの「雪に包まれる被災地」という「巨大絵画」の展覧会が、神戸で開かれているとのニュースが放映されました。軽く聞き流していたのですが、翌日、とある牧師から是非見られたら…というメールをいただき、そうだ！ と思い直して直ぐに展覧会場に足を運び、大きな絵を見させていただきました。会場は神戸税関近くの「KIITOホール」ですが、神戸っ子でありながらその近辺はあまり詳しいわけではなく、地図を見ながら迷い迷いだどり着きました。平日の為か人は少なかったのですが、それがちょうどよく、ゆっくりと絵を眺める事が出来ました。高さ5.4m、幅16.4mの大きな、呑みこまれるような絵です。

まさに、その時の被災地の姿が思い起こされる様な絵で背筋がゾクッ！としたのを覚えています。

その場で、30分ほどボーッと眺めていただけなのですが、あれから2年経った今、改めてこの絵を見て、2年前を思い出しました。その中で、自分が今何をしたらいいのか、何が出来るのかを考えさせられました。時間と共に人は過去を忘れていきます。神戸も含めて忘れてはならない事もあります。自然の中では「人間とは、いかに小さい物」だという事を忘れず、お互いに支えあって生きていきたいと思えます。人として、又クラブとしてできることを探していきながら、支えあう活動を細く長く続けて行きたいと思えます。



### <今月の聖句に添えて>

「主イエスは昇天に際し再びこの地上に來られることを約束しておられた。その時には死者は呼び出され、生きている者も呼び集められ、審判の後地上の王国（神の国）が実現する。然しその日その時を定めておられるのは神のみである。私たちは忍耐してその時を待つ。」

（山根貞夫司祭@神愛修女会・深和ホーム）

## 3月第1例会 「地域奉仕」

### 「障害者の就労支援の現状を見る

#### ～『ネットワーク神戸』の働きを通して～

山口 徹

「少なくとも各委員会が一回例会を担当しよう！」という会長方針に従い、最後の地域奉仕委員会は、「我々の住む『神戸』という地域において、クラブとして今後「何か地域奉仕ができないか」というこれまた会長方針に基づき、長く親しく、尊敬する古きYMCAのメンバー伊田昌義氏が理事長を務める『ネットワーク神戸』の障害者の就労支援の実態をまず知りたいたい、ゲストスピーカーとして招いた。



現「障害者雇用促進法」では、一定のルールに従い、企業は障害者の雇用を義務付けられ、法定雇用率を下回る企業には行政指導が行なわれ、達成に向けて企業が求められている。あわせて、労働者200人超の事業主は、法定雇用障害者数に不足する人数に応じて「障害者雇用納付金」が徴収される。しかし、納付金を支払い、障害者を積極的に採用しようとならない企業が多いのが実情だそう。

特別支援高等学校を卒業してもなかなか就職できない人にとっては年金を受け取るまでの長い期間をどの様に生きていくか、また、経済的に自立していくことが大変厳しいという現実が大きな社会問題になっている。その様な実体を鑑み、NPO法人『ネットワーク神戸』（兵庫区）を立ち上げ、知的障害者も含め20名が事業

所内において、就労の機会や生産活動の機会を提供されるとともに、一般就労に向けた支援を受けている。具体的には、1) 手作り紙すき和紙、2) 名刺製作（一枚一枚手作りで製作した和紙の名刺）3) ショール・マフラー製作（さをり織り）4) 貼り作業（ダイレクトメール・情報誌封入れ・宛名シール、シール・ラベル等）等々である。メンバーは仲間・サポーターとともに充実した日々を送っておられるとのことである。

しかし、一般的に福祉的就労から一般への就職へと結びつく割合は年間1～2%だという。ならば、私たち、またクラブとしてはどの様に寄り添い、大きなことはできないかもしれないが心からどんな奉仕ができるかを是非まず追求していきたいと願っているし、それが、「地域奉仕」のひとつになればきっと共に喜び合えると信じている。

## お知らせ

▼CS基金等、納入しました。

CSTOF：15840円、CS年賀切手など：16500円、FF（ファミリー・ファスト）：3000円、Yサ・ユース献金：19000円、マラリア基金：1550円、東日本区支援：15700円。BF基金は表紙に記載の通りです。

▼東日本大震災復興支援募金

3月10日（日）14時～17時、神戸大丸前での募金活動に川崎、井出メン、橋本、長内、井出メネットの5人が参加。10日は大丸前を含めて5カ所、翌11日には1カ所で行われた街頭募金で、合わせて515610円の募金が集まりました。

▼ロースターの記載事項を確認しています。

住所等、変更のある方は、進藤会長までご連絡ください。また、クラブで把握しているe-mailのアドレスをロースターに記載する予定です。ロースターへの掲載を希望しない方も、進藤会長までご連絡ください。

## 5月例会

▼5月第1例会は、5月11日（土）15時から、井出メン宅にて行います。いつもの例会の曜日と違います。ご注意ください。

時間：5月11日15時～18時30分

場所：井出宅……一品持ち寄りで会議終了後、食事を予定。

詳細は、あらためてお知らせします。



# Kobe Menettes

Declared March 10·1965

## 釘煮奮戦記

長沢百合子

釘煮を教えてもらったのは、主人の友人のお母さんからだった。その人の作った透明に光ってしかも柔らかい佃煮に驚き、春になるといかなごという小魚が獲れて、多くの家庭で佃煮（つまり釘煮という）を作るといこともその時知った。早速作り方を教わって以来毎年挑戦してきたが、目に焼き付いたあの美しい釘煮には、まだ追いつけないでいる。

今度こそと夢中で試していると釘煮が溜ってしまい、一方的に友人知人に少しずつではあるが送り始めたのが恒例の行事になってしまった。毎年送る時に短い挨拶文を添えていたが、今それらを読み返すと、私の釘煮作りの情景がわかって案外面白い。

約30年前に作り始めた時は、アメが少なかったの多すぎたの、2回も鍋をこがしたが執念で3回目を仕上げただの、1回目より2回目、2回目より3回目と仕上りが順調にいかないのが未熟たる所以と落胆しながら、失敗作は妹が喜んで食べてくれるので安心して挑戦できる等々、涙ぐましい努力が記されている。

阪神淡路大震災以後は漁獲量がずい分減って価格がじわじわ上がり、店頭には長い列が出るようになった。2008年は解禁日当日からサイズが大きく、より小さいのを求めようとする様子に『「オレたち成長が早くて悪いか!」と新子たちがふくれているに違いありません。ごもつとも、人間が悪いのです』と反省文になっている。そして2009年『漁獲量が今年の5分の1、海底をこそげても効ナシ。業者は必要量を確保のため値をつり上げ、結果買い求める者の長蛇の列の前に信じられない値段の新子が出現し、思わず後じさりする』事態になってしまったところで私の恒例の「釘煮送り」は終了した。しかしその後も新子を見ると身体のどこかがウズウズしてきて、1回位は作ってみようと思ってしまう。今年も作って妹に送ったら「こんな完ぺきなもの初めて」と言われ思わず首を縮めた。今度こそ、今度こそうまく思いながらこれからも毎年挑戦することになりそうだ。

## 卒業記念のサイン帳

山本洋子

私が通っていた小学校は大阪市を流れる大川に架かる天満橋の北側一帯を校区とし、春には近くの造幣局の桜が一般に開放され「桜の通り抜け」として親しまれ、夏は天神祭の船渡御で賑わいます。

小学校の6年間は担任の先生が2年ごとに変わりましたが、なぜか一度もクラス替えがなくずっと同じ仲間楽しく過ごしました。

数年前から、関東在住の同級生の帰阪にあわせて年に1~2回数人が集まります。ほとんどが幼稚園から一緒なので気心もよくわかりあえ、何十年のブランクもなんのその、顔を合わせると遠慮のない言葉が飛び交い、漫才さながら自然にぼけと突っ込みの役回りができ話が途切れることがありません。

ある時、N君が実家の片づけをしていたらこんなものが出てきたと、サイン帳を持ってきました。卒業の記念にクラスのみんなにひと言ずつ書いてもらったサイン帳です。記憶からすっかり遠退いていましたが、卒業前にサイン帳が行き交っていたのを思い出しました。残念なことに私のサイン帳はどこを探しても見当たりません。

大切に取っておいてくださったN君のお母さんに感謝しつつ、みんなでページを繰りました。縦横10センチ余りの小さなものですが、贈ることばと名前と住所が記されています。読み進んでいくと記憶の濃淡はありますがそれぞれの顔が懐かしく思い出されます。中にはあんなに元気で腕白だったのに今はもういない人、そして連絡の途絶えている人も何人か。感慨深いものがあります。書かれている内容は希望に満ちた温かく思い遣りのあることばで、悪質ないじめもなく純朴だったことが窺われます。

ぜひこの感動をみんなで共有しようと、今秋クラス会をすることが決まりました。当日、サイン帳のコピーを冊子にして配ることにしました。手にした人はどんな想いで眺めるのでしょうか。